

告示	番号	35	神経・筋疾患
	疾病名	遺伝性運動感覚ニューロパチー	

## 遺伝性運動感覚ニューロパチー

いでんせい うんどうかんかくにゅーろぱちー

### 概念・定義

末梢神経が遺伝的に障害される疾患を総称して遺伝性運動感覚ニューロパチーとよぶ。末梢神経は運動神経、感覚神経、自律神経に大別され、また構造上軸索と髄鞘から構成されている。遺伝性運動感覚ニューロパチーはこれら末梢神経構成成分の遺伝子異常によって生じており、電気生理検査および遺伝学的検査によって診断することができる。

### 症状

末梢神経の障害により、筋力低下、筋萎縮、感覚障害を発症する。一般的に病状変化は緩徐であり、徐々に症状が進行してゆく。筋力低下は進行すると歩行が困難になり、感覚異常が進行すると皮膚障害を併発することがあり、日常生活が困難になることも少なくない。症状は基本的に末梢神経中心であり中枢神経障害の合併は一般的に少ない。

### 治療

現在まで根本的治療は報告されていない。理学療法、手術療法、薬物療法があり、臨床症状にあわせて選択される。理学療法にはリハビリテーション、QOL確保のための装具の処方があり、手術療法では関節拘縮や腱手術が選択され、薬物療法としてはビタミン治療等が考慮される。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/11\\_12\\_30.html](http://www.shouman.jp/details/11_12_30.html)